

1. 評価結果概要表

作成日

平成19年12月7日

【評価実施概要】

事業所番号	4071101473		
法人名	のみやま有限会社		
事業所名	グループホームおさ		
所在地	福岡市南区日佐3-40-31 〒811-1313 (電話) 092-588-5611		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成19年11月30日	評定確定日	平成20年1月9日

【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 3月 15日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	15人 常勤	5人 非常勤	10人 常勤換算 5.3人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り 2階建ての～ 1階部分		
------	-----------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000-38,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(150,000 円)	有の場合償還の有無	有 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	500 円	おやつ	50 円
	または1日あたり 円程度			

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

登録人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	3名	要介護2	5名		
要介護3	7名	要介護4	2名		
要介護5	1名				
要支援1	名	要支援2	名		
年齢	平均 83歳	最低 77歳	最高 96歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	のみやま内科医院/那珂川病院/沖歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療を通して地域との関わりの中から、地域に根ざしたグループホームの必要性を感じ、開設されたグループホームである。入居者には、地域に長く住み続けていた方が多く、開設当初から地域との交流が積極的に行われている。ホームの理念として「一緒にいる喜びを感じられる家庭」を掲げ、入居者一人ひとりが日々のかかわりの中で喜び・楽しみを感じられる場面や状況を提供している。ホームの近隣に母体医院があり、医療面の対応が充実しており、複数の協力医療機関との連携を密にし、入居者の安らぎと安心につながっている。入居者は、小中学校の運動会に参加したり、地域行事への参加、中学生の体験学習を通じての地域交流が行われている。また、毎月の外出以外にも週1回、入居者への個別レクリエーションや外出の支援が積極的に行われ、質の向上に取組まれている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価の結果は、スタッフ会議時に報告し、全体的に質の向上に向けてレベルアップを図るなどの改善の成果が見られ、サービスの質の向上に生かす取組みがある。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 今回の外部評価を受けるにあたり、職員全員で自己評価を行うなどの取組みがある。今回、外部評価内容のねらいを学習することで前回の外部評価内容と今回の外部評価内容の違いを認識するなど、職員への気づきを生み出す結果につながっている。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族・本人、地域の介護支援専門員、法人内の看護師長、ホーム職員の参加により2ヶ月毎の運営推進会議が開催されている。運営推進会議時に地域包括支援センター職員からの地域権利擁護や虐待等についての説明やホームの活動報告、地域との活発な意見交換が行われている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族の面会時の声かけや家族会、運営推進会議の開催時を利用した意見聴取などが行われ、些細な要望・苦情に関してもその都度各フロアーの職員間で話し合うなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域行事や小中学校の運動会への参加、老人会の催し、中学生の体験学習の受入れ、地域の美容室を利用するなど、地域交流への取組みがある。また、近隣の方から漬物等のおすそ分けを頂いたり、地域バザーに出店するなど、地域の人々との交流を深めている。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスになったことを受けての、理念 の再検討まで話されていないが、開設当初からの理 念が、地域交流を重視したものであり、職員は常に地 域とのかかわりを意識しながら業務に携わっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	各フロアーのリビングに理念が掲示されており、自 然に目に入る工夫がある。毎月のスタッフ会議で日々 の業務を通じて理念に基づいたケア内容について協 議されるなど、理念の実践に向けた取組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	地域行事や小中学校の運動会への参加、老人会の 催し、中学生の体験学習の受入れ、地域の美容室を 利用するなど、地域交流への取組みがある。また、近 隣の方から漬物等のおすそ分けを頂いたり、地域バ ザーに出店するなど、地域の人々との交流を深めて いる。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の外部評価の結果を踏まえて全体的な質の向 上に向けてのレベルアップを図るなど改善に向けて 取り組んでいる。自己評価の際には、職員全体で評価 の意義や目的について確認し合うなどの取組みがあ る。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族・本人、地域の介護支援専門員等の参加のもとに平成18年4月から2ヶ月毎に運営推進会議が開催されている。運営推進会議時に活動報告や地域福祉権利擁護事業などの説明が行われるなど、質の向上に向けての取組みがある。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への地域包括支援センター職員の参加があり、運営推進会議を通じて連携が図られている。また、入居者の外出支援などについて市町村担当との連絡・連携を図る取組みがある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	運営推進会議にて地域包括支援センター職員から説明を行ったり、家族へ資料を配布、説明している。職員への研修参加やスタッフ会議時の研修報告会など積極的な理解への取組みがある。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に個人アルバムの写真や介護記録等を提示して具体的な状況を説明したり、毎月発行している会報を利用して入居者の状況報告を行うなどの働きかけがある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時の声かけや家族会、運営推進会議開催時を利用した意見の聴取などが行われている。苦情に関しては、スタッフ会議やその都度の職員間で話し合うなどの取組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間での職員の異動等はなく、馴染みの関係が継続されている。新しい職員の採用時には、馴染みの職員が主にかかわるようにし、入居者への影響がないように配慮している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	<p>人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用に関して年齢や性別などによる制限は、何ら行われていない。調理師の免許を持つ職員が他の職員への指導を行ったり、パソコンの得意な職員へパソコン入力等を行ってもらうなど、職員の特技を生かす工夫がある。</p>		
12	20 追加	<p>人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議時に、認知症高齢者をケアする上で必要な人権について学ぶなどの取り組みがある。広く差別問題や障がい者などの職員の人権意識を喚起するような勉強会・研修などへの取り組みについてはこれからの課題である。</p>		<p>認知症の方をケアする職員の基本的資質として人権意識が必要であり、その基本的資質である人権意識を喚起する意味において、行政等で実施される講話等への参加など、様々な機会を利用しての積極的な取り組みを期待します。</p>
13 (10)	21 (19)	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の経験を考慮した上での外部研修への参加がある。外部研修参加後は、スタッフ会議にて報告を行い、知識の共有に努めるなどの取り組みがある。</p>		
14 (11)	22 (20)	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>ホーム開設時や認知症管理者研修を通じての他グループホームへの見学、交流などが行われている。また、他グループホームからの見学・情報交換や交流などを通じての質の向上への取り組みがある。</p>		


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	5泊6日の体験入居の利用や入居前の職員による面接など馴染みの関係づくりへ取り組んでいる。入居後も本人・家族と話し合い、以前の生活環境との差が生じないように、家具や私物の持ち込みや配置等を工夫し、早くホームに馴染むための取り組みがある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の会話やかかわりを通じて、入居者から料理の仕方や和服の着付け、昔の歌、戦争の時の様子を教わるなど様々なことを学ぶ取り組みがある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面談や家族からの聞き取り、日々のかかわりの中で入居者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、スタッフ会議にて職員全員で話し合い検討する取り組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族面会時の声かけやその都度の連絡、ホーム便り等を、通じて家族の希望や意向、日常のかかわりの中での入居者の意向の把握に努めている。また、サービス担当者会議にて職員全体で検討し、介護計画を作成している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要 な関係者と話し合い、現状に即した新 たな計画を作成している	3ヶ月毎の定期的な見直しのほかに毎 月のスタッフ会議にての入居者の状 況や様子等について情報交換を行 い、職員全員で検討している。また、 状態が変化した際には検討、見直し を行っている。		
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能 性を活かした柔軟な支援をしてい る	週1回入居者一人ひとりに 応じた個人レクリエーションの 日を設定し、墓参りや以前住 んでいた自宅等への外出、音 楽鑑賞、洋服や化粧品 の買い物など入居者の希望 に応じた支援がある。また、 入居者の入院時に家族に代 わって着替えを届けるなど、 家族の要望に対して柔軟に 対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を 大切に、納得が得られたか かかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医 療を受けられるように支 援している	契約時に今までのかかり つけ医への受診希望があ るかどうかが把握してい る。希望がある場合は、 基本的に家族で対応して もらうが、家族が対応で きない場合は職員で対応 するなどの支援がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた 方針の共有 重度化した場合や終末期 のあり方について、でき るだけ早い段階から本人 や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し 合い、全員で方針を共有 している	契約時に医療に関する同 意書にて重度化へ向けた 説明を家族等に行い、同 意を得ている。重度化の 時期を迎えた場合は、家 族へホームとして対応で きるケアについて説明し、 本人や家族、かかりつけ 医等と話し合い、対応方 針を定めて対応する取組 みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	入居者の視線に合わせての会話やゆっくりとした言 葉かけがなされており、入居者を尊重した対応が見 受けられた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしての基本的な流れはあるものの、入居者 一人ひとりの状態に配慮しながら、決して無理強いせ ず、食事やリクリエーションの声かけ等を行っている。 その時々で、一人で居室で過ごしたり、入居者同士で 談笑する方など、入居者のペースを尊重した対応が 見受けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	調理の下ごしらえや下膳、食器洗い、拭きなど、入 居者一人ひとりができる範囲で協力しながら食事の 用意や後片付けを行うなどの取組みがある。また、入 居者、職員ともに食卓を囲み食事が楽しみとなるよ うな対応が見受けられた。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるよう に支援している	午後から夕方までの時間帯で、毎日入浴が可能で ある。入浴の順番等、入居者の希望や今までの生活 パターンに配慮した対応がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	茶碗洗いや拭き、洗濯物たたみ、掃除等家事全般 において、入居者間にて自然に役割ができており、入 居者に合わせた役割への支援がある。また、遠出の 外出や入居者の希望に応じた個別レクリエーションを 行うなど、楽しみへの支援がある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	月一回以上の外出、温泉旅行、紅葉見学、芝居見 学など、入居者全員による行事・外出や少人数での 外出への支援が行われている。また、日常の散歩を かねた近隣への買い物などの支援がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に開錠されている。玄関ドアの開閉による チャイムを設置し、入居者の動きを細かくキャッチし、 さりげない声かけや見守り、入居者と一緒に職員が 外出するなど、安全面に配慮した支援がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	消防署職員の立会いの下に年2回の避難訓練を実 施している。災害時の近隣住民の協力を得るための 働きかけはこれからである。		運営推進会議の場を活用し、地域住民の参加協力を 得ての避難訓練の実施など、非常災害時に地域の 協力が得られるような働きかけを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの 状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	毎食の食事摂取量や水分摂取量を把握し、記録や 管理を行い、週2回の医院長の検食にて食事メニュ ーのカロリーや栄養バランスについてのアドバイスを 受けるなど、入居者の状態に応じた食事の提供等の 支援を行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは程良く採光され、ソファや椅子を配置 し、入居者がゆっくりとくつろいでいる光景が見られ た。また、入居者と一緒にクリスマスの飾り付けを行う など、季節感を意識的に取り入れ居心地の良い雰 囲気作りへの工夫がある。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	寝具やベッド、仏壇、タンス、冷蔵庫等、馴染みのも のや使い慣れたものが持ち込まれており、家族の写 真等を飾るなど、安心して居心地よく過ごすための居 室作りに配慮している。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号